

2 下水道事業の概要

- ▶ 京都府では、桂川右岸、木津川、宮津湾、木津川上流、桂川中流の5流域下水道の整備を推進してきたが、桂川中流については町村合併により、平成28年4月1日より南丹市に移管し、現在は4流域下水道の整備を行っている。

- ▶ 桂川右岸流域下水道事業は、昭和54年10月から供用を開始し、昭和57年度に幹線管渠工事（污水）が完成。現在、施設の耐震対策や老朽化設備の改築等を進めており、温室効果ガス排出量の縮減等を目的とした汚泥固形燃料化事業（DBO方式）についても事業を進め、平成29年4月から供用開始している。また、既存の汚泥焼却施設は能力を縮小することとして更新工事を進めている。

また、桂川右岸地域の浸水解消の広域雨水対策事業（いろは呑龍トンネル）計画を策定、平成8年12月北幹線第1号管渠工事に着手、平成13年6月一部供用開始（管理を向日市に委託）。平成23年10月北幹線第2、3号管渠の供用を開始。平成25年の台風18号では初めての満管となり、浸水被害を軽減した。現在、雨水南幹線の供用開始に向けて、呑龍ポンプ場建設工事等を進めている。

水処理施設の上屋を利用して「府立洛西浄化センター公園」を整備し、平成8年4月に一部を開園、平成13年3月に第1期分が完成した。また、隣接の上屋覆蓋（E系）も平成13年度に完成したため、平成14年度から芝生球技場の整備工事に着手し、平成16年8月から施設の供用を開始している。

- ▶ 木津川流域下水道事業は、昭和61年3月から供用開始。幹線管渠及び中継ポンプ場は平成8年3月に完成し、平成10年10月宇治幹線延伸（山城町区域）に着手し、平成13年10月に完成した。

また、消化ガス発電・汚泥乾燥施設の建設を進め平成17年3月に完成し、4月から供用開始し、消化ガスの有効利用と汚泥の減量化を図っている。

更に、平成20年3月に増設した水処理施設（D系）や消毒施設については、最新の省エネ技術や耐震基準を採用するなど、地球温暖化防止や地域の安心・安全の確保に努めている。

現在、流入水量の増加に対処するため、水処理施設の増設を進めている。

- ▶ 宮津湾流域下水道事業は、昭和59年度から事業着手し、平成5年3月から供用開始した。施設の耐震対策や老朽化設備の改築等を進めている。

- ▶ 木津川上流流域下水道事業は、平成元年3月に事業認可を得て建設を進め、平成11年11月から供用開始した。平成27年度には消化ガス発電施設が完成・稼働し、消化ガスの有効利用を行っている。

また、流入水量増加に対処するため、水処理施設6、7系の増設工事を進めており、平成31年4月より6系が本格稼働している。

- ▶ 桂川中流流域下水道事業は、平成3年4月に事業認可を得て建設を進め、平成11年4月から供用を開始。流入水量の増加に対応するため、平成22年3月に水処理施設（3系）の増設を行った。
町村合併により、平成28年度から南丹市に移管した。

- ▶ 流域下水道の汚水処理施設の運転管理は、昭和54年6月に設立された財団法人京都府下水道公社に5流域全て委託して行っていたが、平成18年5月に財団法人京都府下水道公社を解散し、同年6月から「流域下水道事務所」において建設だけでなく5流域全ての汚水処理施設の運転管理も一体的に行った。

- ▶ 民間事業者の創意工夫を活かし、浄化センターの施設運転管理の効率化を図るため、4か所の浄化センターについて包括的民間委託を順次導入した。（平19宮津湾浄化センター、平20南丹浄化センター、平21木津川上流浄化センター、平23洛南浄化センター）